

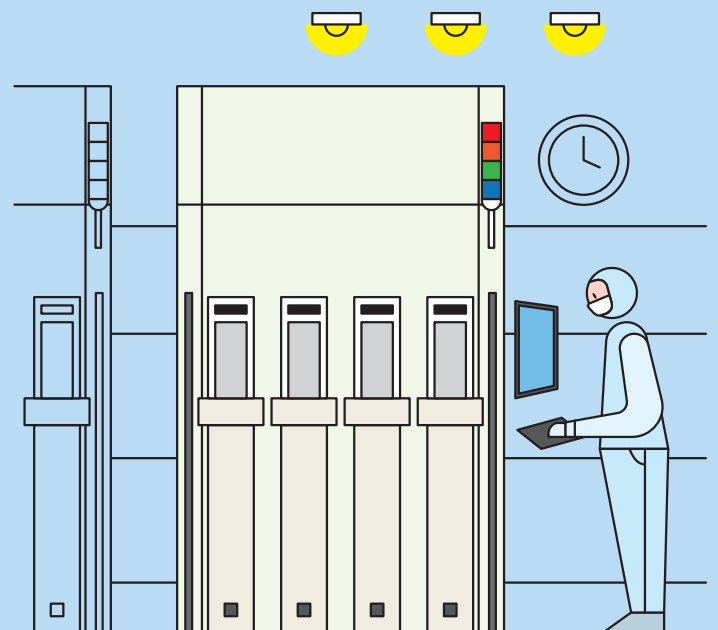
荅原グループと皆様をつなぐコミュニケーションマガジン

THE EBARA

2022 AUTUMN

報告書

2022.1.1 ~ 2022.6.30 証券コード:6361



特集

次の100年へ、
荅原の成長を支える技術人材
を可視化しました

Looking ahead, going beyond expectations

Ahead  *Beyond*

技術で、熱く、世界を支える

荏原グループは、創業以来大切にしてきた「熱と誠」の精神を持って仕事に取り組み、100年以上にわたって磨き続けてきた高い技術力を駆使して、社会、産業、くらしを支える製品・サービスを提供することを自らの存在意義としてきました。これからも、確かな技術力を強みに成長を続け、熱い志を持って豊かなくらしを支える製品・サービスを世界中に広げ、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

E-Vision2030

技術で、熱く、世界を支える

荏原グループは、2030年度に向けた長期ビジョン「E-Vision2030」を策定しました。E-Vision2030では、「技術で、熱く、世界を支える」というスローガンを掲げ、荏原グループが2030年に向けて解決・改善していく、5つのマテリアリティ(重要課題)を設定しています。事業活動を通してこれらの解決に取り組むことで、社会・環境価値、経済価値の向上につながるアウトカムの実現を図ります。

5つのマテリアリティ(重要課題)



重要課題1
持続可能な社会づくりへの貢献

技術で、熱く「持続可能で地球にやさしい社会、安全・安心に過ごせる社会インフラ、水や食べるものに困らない世界」を支える



重要課題2
進化する豊かな生活づくりへの貢献

技術で、熱く「世界が広く貧困から抜け出す経済発展と、進化する豊かで便利なくらしを実現する産業」を支える



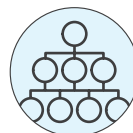
重要課題3
環境マネジメントの徹底

カーボンニュートラルに向けて、再生可能エネルギーの最大限の利用を含めた、CO₂削減を推進する



重要課題4
人材の活躍促進

「競争し、挑戦する企業風土」を具体化する、多様な社員が働き甲斐と働きやすさを感じて、活躍できる企業グループとする



重要課題5
ガバナンスの更なる革新

成長へのビジョンを描き、グローバルで勝ち続ける経営を後押しする攻めと守りのガバナンスを追求する

創業から貫く精神「熱と誠」

創業初期、当時では記録的な大型ポンプを、クレーン設備もない東京・日暮里の小さな町工場で、苦心惨憺の末、完成させました。このとき、「与えられた仕事を単にこなすのではなく、自ら創意工夫する熱意を持って誠心誠意これにあたり、本人も会社も成長する」という言葉を畠山自身の行動の拠り所とし、従業員に対しても説き続けました。以来、「熱と誠」の精神で、技術と信頼を高める努力を続け、現在では風水力事業、環境プラント事業、精密・電子事業の3事業でグローバルに展開する産業機械メーカーに成長しました。



創業者
畠山 一清

熱と誠

企業理念

水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供することにより、広く社会に貢献する。

目次

- 1 私たちの使命
- 3 トップメッセージ
- 7 事業別の概況
- 9 特集
次の100年へ、荏原の成長を支える技術人材を可視化しました
- 11 トピックス
- 13 海外展開
- 14 会社情報

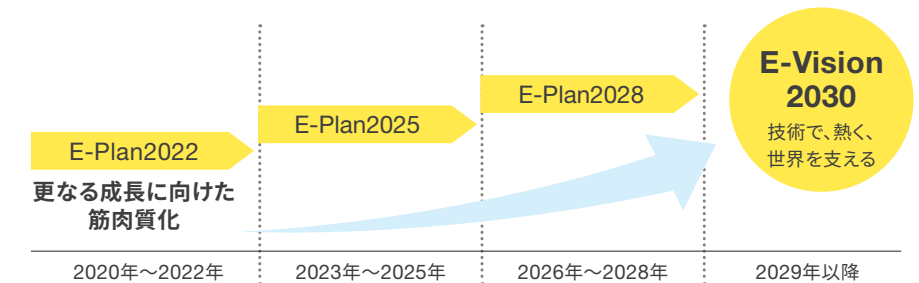
新たなチャレンジで社会課題を 解決し続け、100年先も、 技術で、熱く、世界を 支えていきたい

取締役 代表執行役社長
浅見 正男



中期経営計画「E-Plan2022」

中期経営計画「E-Plan2022」は、長期ビジョン「E-Vision2030」で示した荏原グループの進むべき方向性に対して、バックキャストして今後3年間で取り組むべき経営の方針や戦略を表すものです。2020年からの3年間で「更なる成長に向けた筋肉質化」と位置付けています。



E-Plan2022 基本方針

- 1 事業成長への挑戦**
新事業の開拓・創出や既存事業におけるグローバル市場への更なる展開
- 2 既存事業の収益性改善**
収益基盤強化のための事業構造の变革と全事業でのサービス&サポート売上高の伸長

- 3 経営・事業インフラの高度化**
デジタルトランスフォーメーション(DX)への積極的な取り組み等による経営のスピードアップ、ROI経営の深化
- 4 ESG経営の進化**
変化する環境問題への取り組み、社会とのつながり及びガバナンスの強化

E-Plan2022 達成すべき目標

- 1 最重要経営指標(KPI)**
投下資本利益率(ROIC) 7.6%以上
売上収益営業利益率 8.5%以上
- 2 目標を達成するためのモニタリング指標**
親会社所有者帰属持分(ROE) 11.2%
D/Eレシオ 0.4～0.6倍
事業別営業利益率
風水力事業 7.0%以上
ポンプ事業 6.5%以上
コンプレッサ・タービン事業 8.0%以上
冷熱事業 5.0%以上
環境プラント事業 9.5%以上
精密・電子事業 13.0%以上

当社グループを代表して、いまだに収束が見えない新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によりお亡くなりになられた方々、ご遺族の皆様にご哀悼の意を表すとともに、罹患されている方々や困難な状況におられる方々が一日も早く回復されますよう、心よりお祈り申し上げます。

2022年12月期 第2四半期連結累計期間の業績について

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症対策において中国など一部の地域では経済活動に制限が出るなど影響はみられたものの、全般的に社会経済活動の正常化により、持ち直しの動きがみられました。日本経済においても、新型コロナウイルス感染症の抑制対策と社会経済活動の正常化が進む中で、設備投資は持ち直しの動きがみられました。一方、国内外の経済における先行きについては、原材料・資源価格の高騰や半導体不足に加え、急激な円安進行やウクライナ情勢による地政学リスクの高まりなど、不透明かつ不安定な状況が続いており、引き続き注視が必要です。

当社グループの主要市場である石油・ガス市場にお

いては、原油価格の上昇や新型コロナウイルス感染症の影響からの需要回復により案件に動きがみられるなど堅調に推移したほか、建築設備市場においても地域により差はみられるものの、経済活動の持ち直しにより中止されていた工事が徐々に再開されるなど需要回復がみられました。半導体市場においては需要が高水準で推移し、顧客の設備投資は拡大基調が続きました。また、日本の国土強靱化関連の公共投資については引き続き堅調に推移しました。

当第2四半期連結累計期間における受注高は、風水力事業において前年同期と比べて新型コロナウイルス感染症の影響が縮小したほか、環境プラント事業では廃棄物処理施設の大型案件を獲得したことや精密・電子事業では旺盛な半導体需要を着実に取り込んだことにより好調に推移しました。売上収益は風水力事業や精密・電子事業における受注増加により前年同期を上回りました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における受注高は3,994億15百万円(前年同期比15.8%増)、売上収益は3,124億18百万円(前年同期比14.0%増)、営業利益は271億83百万円(前年同期比10.1%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は180億65百万円

(前年同期比7.6%増)となりました。

株主還元について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最も重要な経営方針の一つと位置付けています。株主還元につきましては、連結配当性向35%以上を目標に当該期の業績に連動させ、かつ親会社所有者帰属持分配当率(連結)2.0%以上を確保する方針としています。また、自己株式の取得については機動的に実施していくこととしています。この方針に基づき、2022年12月期の中間配当金につきましては、当初予想どおり1株当たり85円とさせていただきます。

時代に合わせて、変化しながら、世界を支え続ける!

2022年は、来期から始まる新しい中期経営計画を策定する年です。次の中期経営計画では、マーケットインでのアプローチをより強化していきたいと考えています。その際に大切なのは、どれだけお客様に寄り添っているか、ということです。当社が、お客様から見たアウトカムに、社会に、地球環境に、どのように貢献できるか。当社が開発、提供した製品が、お客様や社会にどのような

付加価値を認めていただけるか。貢献し、価値を認めていただくためには、お客様に寄り添って困りごとを解決しなければいけません。お客様の「こういうことで困っている」、「こういうものが欲しい」という声をきちんと聞くことができているのか、改めて原点に立ち戻って考えてほしいと、社員には伝えていきます。

マーケットインの考え方の根底には、お客様を幸せにしたい、世界にいる誰かのためになりたいという思いがあります。当社はこれまでの100年間、社会課題を解決することを目指して事業を行ってきました。そして、当社の技術が強みを発揮できる分野でそれを行ってきたことが、今でも事業を継続できていることにつながっているのだと思います。社員には、難しい課題であればあるほど良い、と話をしています。難しいことにチャレンジして、それを解決できれば、お客様に認めていただけて、次々と新しい話が来るようになる。そういう会社であり続けたいと考えています。

新しいことにチャレンジするのは、当社が培ってきたカルチャーです。難しいことに挑戦し続けるからこそ、セレンディピティ[®]も生まれます。そういったカルチャーを継承していくために、人材を育成していく必要があります。最も重要なことは、会社の中だけでなく、外に出

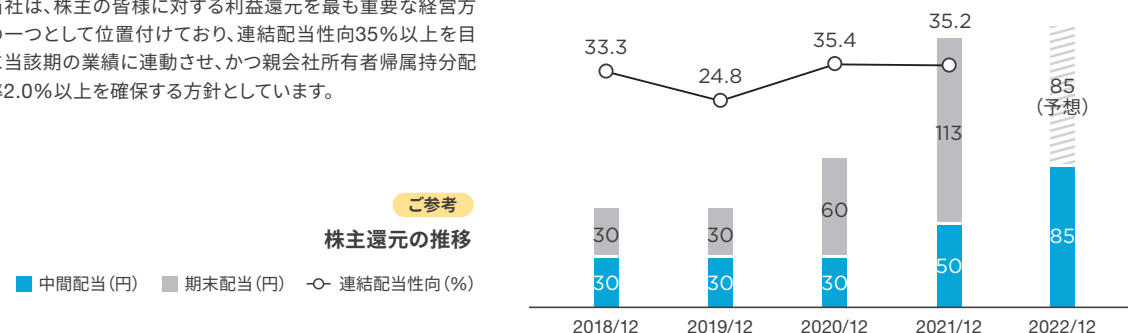
財務方針

成長投資を最優先とします。配当などの株主還元を拡充するとともに、各事業で運転資本を改善し、資本効率を高めてまいります。

成長投資	株主還元	資本の効率化
<ul style="list-style-type: none"> 設備投資 1,000億円程度 研究開発費 400億円程度 積極的なM&A 	<ul style="list-style-type: none"> 連結配当性向35%以上 ※自己資本を基準とした親会社所有者帰属持分配当率2.0%以上を下限とする 機動的な自己株式取得 	<ul style="list-style-type: none"> D/Eレシオ0.4~0.6倍程度 売上債権・棚卸資産の圧縮

株主還元

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最も重要な経営方針の一つとして位置付けており、連結配当性向35%以上を目標に当該期の業績に連動させ、かつ親会社所有者帰属持分配当率2.0%以上を確保する方針としています。



連結業績ハイライト (2022年12月期 第2四半期(累計))

- 当期のポイント
- 1 精密・電子事業が牽引し、受注高、売上収益、営業利益がいずれも前年同期よりも増加し、上期としては、過去最高を更新
 - 2 中国ロックダウンや原材料価格の高騰などによるマイナス影響を受けたが、為替の円安進行により、増収増益
 - 3 風水力事業と精密・電子事業の通期業績予想を見直し、受注高、売上収益、営業利益の通期の業績予想をそれぞれ上方修正

受注高 **3,994億円**
前年同期比 +15.8%

売上収益 **3,124億円**
前年同期比 +14.0%

営業利益 **271億円**
前年同期比 +10.1%

親会社の所有者に帰属する
四半期利益 **180億円**
前年同期比 +7.6%

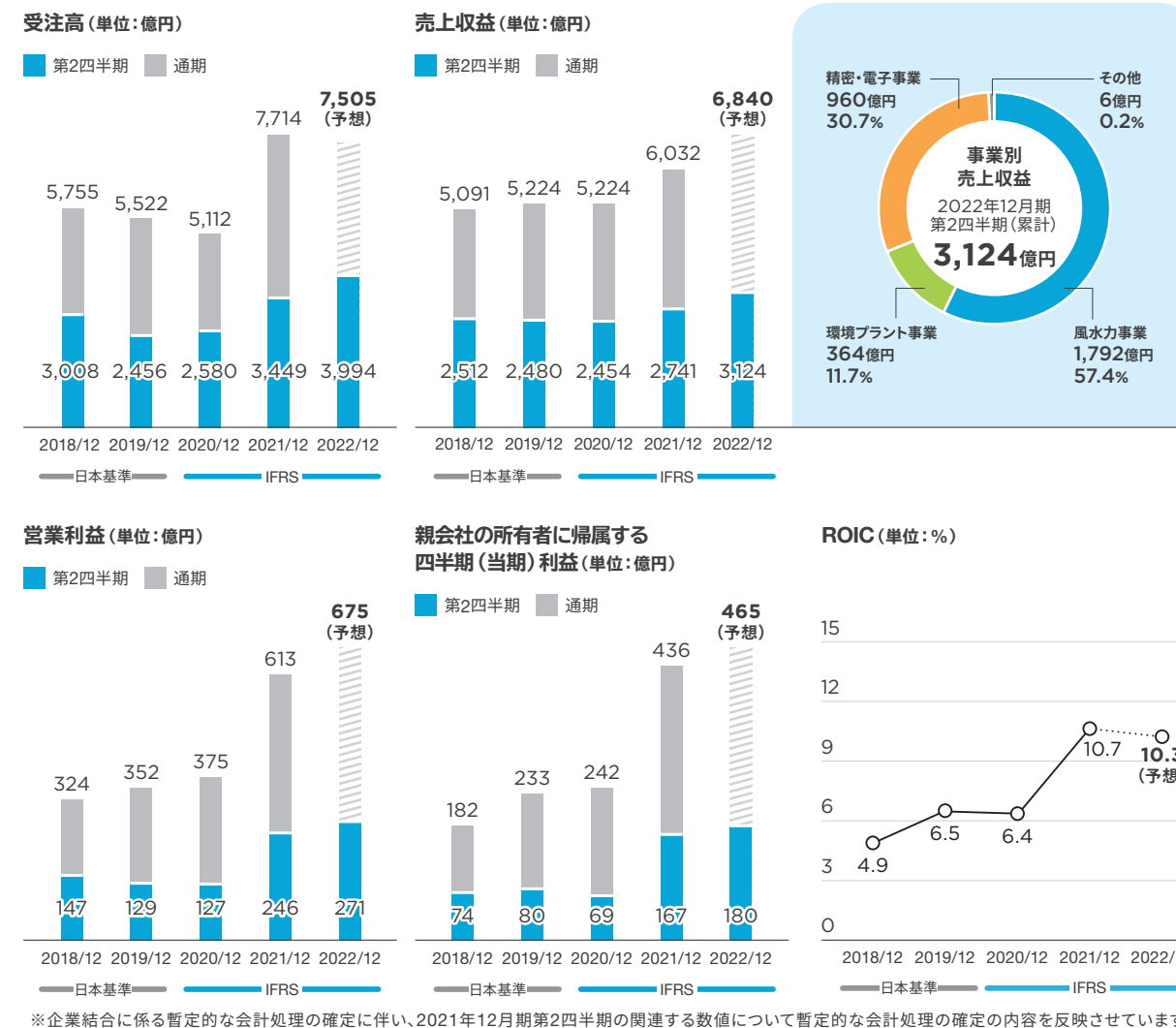
てどれだけ刺激を受けられるかです。一例として、Spiber株式会社やリアルテックグローバルファンド株式会社などに投資をし、社員を派遣し、新事業を探索する中で、人材を育成しようとしています。

人材に関して、私が社員に伝えていることの一つに、リーダー資質の重要性があります。私が考えるリーダー資質とは、好奇心、洞察力、リスクを取る胆力、そして影響力の4つです。自分がやっていること自体、その対象で

ある人たち、社内外で起きていることに興味を持たず、言われたことをそのままやっていたらよいという姿勢では、何も生まれません。興味を持ってその仕事をやる意味を考え抜く好奇心、どのようにすれば相手に喜んでもらえるかを見抜く洞察力、初めてのことで“とにかくやってみよう”と腹を決めてやってみる胆力、そして人を巻き込んでいく影響力を循環させていけば、物事は自然と良い方向に向かうはず。当社グループは、2030年までに「国籍や性別を問わず、自ら考え、スピード感を持って、積極的に新たな挑戦をし、目に見える成果を出す」企業になることを目指しています。そのためには、このようなリーダー資質を持った人材が必要なのです。

これから50年先、100年先も、当社は時代に合わせた姿を変えていながら、情熱を持って、世界を支えていきたいと考えています。それは当社グループだけで行うというよりも、サプライヤーをはじめとした様々な人たちが構成されるエコシステムとして取り組んでいかなければ成し遂げられないことです。皆様の意見を聞き、信頼関係を築きながら、これからも、技術で、熱く、世界を支えていきたいと考えています。

※ セレンディビティ：偶然に思いがけない幸運を発見したり、大切なことや本質的なことを学びとること、またはその能力。

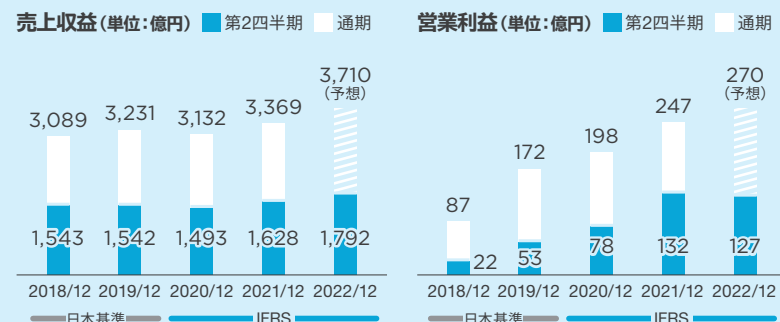


風水力事業

売上収益 1,792億円
前年同期比 +10.0%

営業利益 127億円
前年同期比 -3.8%

主要製品
ポンプ、コンプレッサ、タービン、
冷凍機、冷却塔、送風機



- POINT**
- 標準ポンプ事業は、海外の売上が伸びたものの、国内で原材料価格高騰などの影響もあり減益
 - カスタムポンプ事業は、中国での需要減速により減収減益
 - コンプレッサ・タービン事業は、コロナによる移動制限緩和を受けてサービス&サポートの需要が増加し、増収増益
 - 冷熱事業は、中国市場の需要が堅調で増収増益

第5回ジャパンSDGsアワードを受賞

ポンプ事業では、イタリアのグループ会社 EBARA PUMPS EUROPE S.p.A.とドイツのBoreal Light GmbHの協働による、安全できれいな水を途上国に供給するプロジェクトをケニアで行っています。特別養護学校での水供給と持続可能な浄水・給水システムにより地域の人々の健康に貢献するモデルケースが評価され、外務省主催の「第5回ジャパンSDGsアワード」にて特別賞を受賞しました。また、2022年3月にはケニア・ナイロビにEBARA Pumps East Africaを設立しました。東アフリカ地域における標準ポンプの販売、および地域ニーズに対応する新事業として、小規模農家向けにソーラー灌漑設備の割賦販売事業を推進しています。今後もアフリカ市場での標準ポンプ販路拡大を強化していくとともに、長期ビジョン E-Vision2030の「水や食べ物に困らない社会」の実現に向けて貢献してまいります。



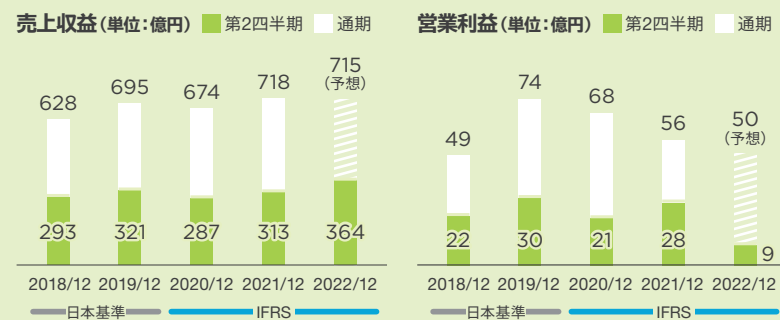
受賞の様子 (首相官邸ホームページより)

環境プラント事業

売上収益 364億円
前年同期比 +16.3%

営業利益 9億円
前年同期比 -66.4%

主要製品
都市ごみ焼却プラント、
産業廃棄物焼却プラント、
バイオマス発電プラント



- POINT**
- EPC(プラントの設計・調達・建設)案件の売上が増加
 - EPC案件の売上収益比率が上昇し、収益性が低下
 - EPC案件における一過性の費用計上により、収益性が低下
 - 人件費及び研究開発費などの費用が増加

千葉県浦安市 基幹的改良工事および長期包括責任事業の開始

環境プラント事業は、近年の廃棄物処理施設の老朽化に伴う建て替えや更新の動き、施設運営を民間企業に委託する動きなどの顧客ニーズを的確に捉え、さまざまな提案活動を行っています。その成果として浦安市より、浦安市廃棄物処理施設基幹的設備改良工事および長期包括責任委託事業を受注し、2022年4月より本事業を開始いたしました。長期包括については、2012年から2022年10年間で受託した1度目に続く、2度目の契約となります。これにより、本施設は1995年の運営開始以降、本長期包括契約が終了する2035年まで40年以上にわたって使用される施設となります。また、基幹的設備改良工事では、高効率のタービンに更新し、発電出力を従前の170%まで向上することにより、浦安市内の公共施設へのCO₂フリー電力の供給を行う電力の地産地消が可能となります。



浦安市クリーンセンター外観

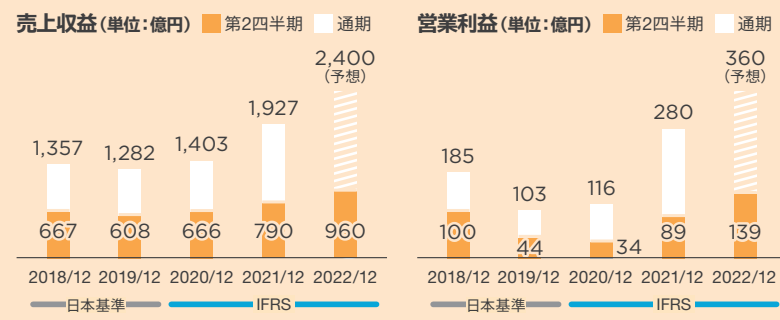
環境プラント事業では、長期的な視点に立って安全安心な基幹的設備改良工事を実施するとともに、CO₂排出量の削減や地域経済への貢献、安定性や継続性を重視した施設運営を行い、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

精密・電子事業

売上収益 960億円
前年同期比 +21.5%

営業利益 139億円
前年同期比 +56.4%

主要製品
ドライ真空ポンプ、CMP装置、
めっき装置、排ガス処理装置



- POINT**
- 半導体市場の設備投資が高水準で推移していて受注が好調
 - 部材調達難の影響で出荷遅れがあるものの、堅調な需要により売上が増加
 - ドライ真空ポンプの自動化工場の本格稼働に伴い、収益性が改善
 - 人件費などの固定費が増加

装置事業の生産能力・開発能力の強化

精密・電子事業は、今後の需要拡大を見据えて、装置事業の生産能力・開発能力の強化に向け、熊本事業所に新生産棟、藤沢事業所に新開発棟を建設することを決定しました。

新生産棟は、生産能力を従来比1.5倍以上に拡大、IoT技術を活用した生産システムで高効率生産ラインを確立、環境負荷低減を考慮した生産設備で、最先端の半導体技術に適合するCMP装置を生産します。新開発棟は、装置事業の開発機能を拡張し、お客様へのソリューション提供力の強化を目指します。

私たちは変化のスピードが速い半導体業界において、さらなる事業拡大を図り今後も多様化し加速する半導体業界のさらなる発展と、「進化する豊かな生活づくり」に貢献してまいります。



藤沢事業所 開発棟完成予想イメージ



熊本事業所 生産棟完成予想イメージ

※風水力事業は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、2021年12月期第2四半期の関連する数値について暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

次の100年へ、 荏原の成長を支える技術人材を 可視化しました

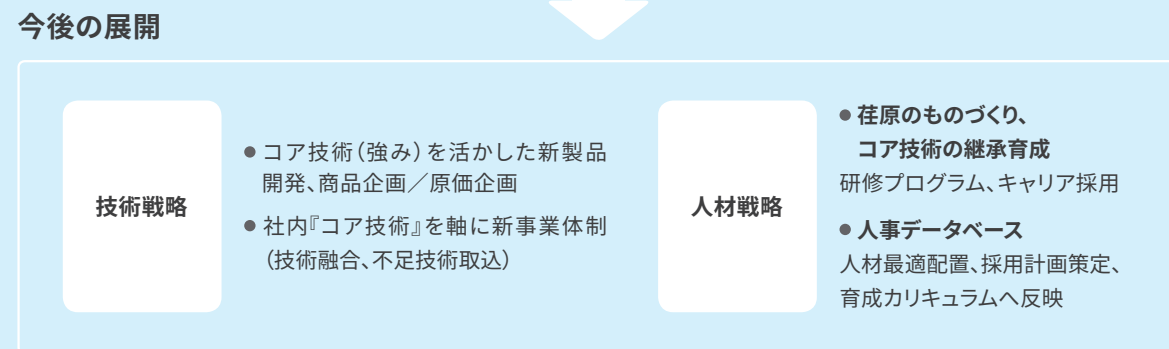
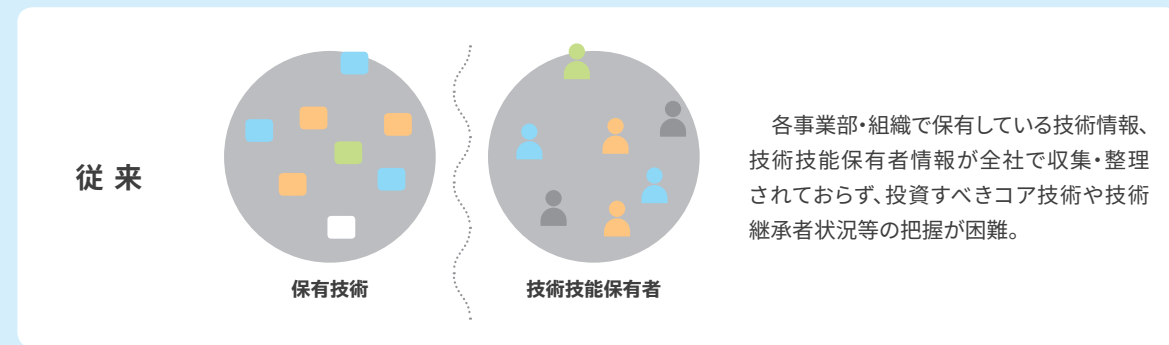


執行役/技術・研究開発・知的財産統括部長
兼 精密・電子事業カンパニー技術統括部長
曾布川 拓司

従来当社では、“コア技術”の大まかなイメージはあったものの、どの部門の誰が担っているのかまで具体的に把握できておらず、自社の強みが何なのか、それが継続的に維持・強化できているのかが可視化できていませんでした。そこで、荏原グループの保有技術と保有技術者をまとめた技術人材マップを作成し、

その中から、当社グループの保有技術をまとめた「技術元素表」を当社のWEBサイトで公表しました。

今後は、この荏原グループ技術元素表を活用して技術に立脚した確かな経営戦略、事業戦略を構築し、E-Vision2030のスローガンである、「技術で、熱く、世界を支える」という使命を果たしていきます。



荏原グループの技術を可視化する「荏原グループ技術元素表」

世界の社会インフラを支え、安全・安心で豊かな生活を実現するため、風水力事業、環境プラント事業、精密・電子事業のそれぞれの事業が保有する独自の技術と、

コーポレートの研究部門や生産技術部門が保有する事業横断で共通する技術を有機的に融合することで、新技術・新製品へとつなげています。

荏原グループ技術元素表

風水力事業	精密・電子事業		環境プラント事業								
ポンプ、コンプレッサ・タービン、冷熱機械、送風機	ドライ真空ポンプ、CMP装置、めっき装置、排ガス処理装置		都市ごみ焼却プラント、産業廃棄物焼却プラント								
Pu Pump System	St Seal Technology	Fd Fluid Machine Design	Mh Material Handling	Py Pyrolysis & Gasification							
De Digital Engineering	Bt Bearing Technology	Sm Sliding Materials	Ep End Point Detector	Po Polish							
Sd Structural Design	Pt Power Transmission Device	Va Vibration & Acoustic	Oz Ozonized Water	Pl Electro Plating	Cl Cleaning	Ce Clean Environment	Tr Throughput	Eb Electron Beam	Eg Exhaust Gas Treatment	Rb Robot	Mt Material
Ht Heat Technology	Na Numerical Analysis	Mo Motor Control	Mo Motor Control	Tg Timing gear	Vt Vacuum Technology	Eg Exhaust Gas Treatment	Ie Industrial Engineering	Mc Machining	Ca Chemical Analysis	DS Data Science	Na Numerical Analysis
Am Additive Manufacturing	Mo Motor Control	Na Numerical Analysis	Ie Industrial Engineering	Va Vibration & Acoustic	Ht Heat Technology	Ca Chemical Analysis	Mt Material	Mc Machining	Rb Robot	DS Data Science	
Fl Fluid	We Welding	Cs Casting	As Assembly	Ts Thermal Spray	Pw Press Working	Nd Non Destructive Testing	Ps Production System	Re Reverse Engineering	Pm Presentational Maintenance	Xr Extended Reality	Ch Chemistry

記号が示す意味と技術 例: Mt (Material)

Mt Material 環境プラント事業

廃棄物焼却炉・バイオマスボイラに特有の高温腐食環境における最適材料の選定や評価・診断、新規材料開発に関わる技術

流動床ボイラ 層内伝熱管 従来伝熱管 開発伝熱管 突起物 溶射合金 開発伝熱管断面 基材

流動床ボイラ向け層内伝熱管用、耐食・耐摩耗自溶合金開発

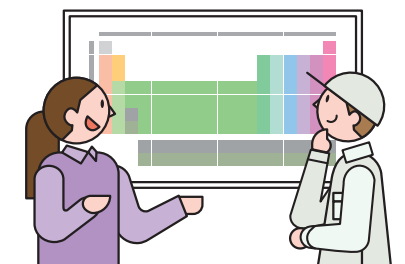
Mt Material 横断技術

特に金属材料の腐食防食、摺動・摩耗、構造強度に関する基礎技術、応用技術

ポンプ用すべり軸受 充填材 合金 硬質粒子

荏原グループでは、荏原製品が使用される特殊環境(高温、腐食、摺動、流動など)に適応する材料に関する研究開発を、保有する流体技術や振動技術などの研究開発と連携して実施することで、荏原特有の材料技術を獲得・形成しています。

荏原グループ技術元素表の詳細は、9月末頃に当社WEBサイトに掲載する予定です。



荏原グループの動き (2022年1月▶2022年6月)

1月
JAN

- 山形県酒田地区広域行政組合ごみ処理施設長期包括運営業務委託を受注(株式会社荏原環境プラント)
- 真空・表面に関する国際会議「The 22nd international vacuum congress」にて、IUVSTA EBARA Awardを募集

2月
FEB

- 「HVAC&R JAPAN冷凍・空調・暖房展」に出展(荏原冷熱システム株式会社)
- CMP装置の累計3,000台出荷達成 **A**
- 「サイエンスキャッスル研究費 荏原製作所賞 2021」の研究発表会を開催
- 国内メーカー初、冷却塔の構成部材「エリミネータ」が米国LEED認証に適合(荏原冷熱システム株式会社)
- 藤沢事業所に新開発棟、熊本事業所に新生産棟の増設を決定
- 国連グローバル・コンパクトとUN Womenによる女性の活躍推進に取り組むための行動原則Wepsに署名
- 国土交通省が進める「マスプロダクツ型排水ポンプ設備」に関する実証試験を実施 **B**

3月
MAR

- 北陸農政局より鎧湯第1排水機場のポンプ設備の新設工事を受注
- 第4回 日本オープンイノベーション大賞の農林水産大臣賞を受賞
- 新たなFlex-Op水素圧縮ソリューションを開発(エリオットグループ)
- カナダのEbara Pumps Canada Corporation事業開始
- 東北地方整備局 三陸国道事務所 普代野田地区トンネル(岩手県)にジェットファン10台を納入
- 健康経営優良法人2022(大規模法人部門)に認定

4月
APR

- 浦安市廃棄物処理施設基幹設備改良工事及び長期包括責任委託事業の運営開始(株式会社荏原環境プラント)
- 正法寺川排水機場(徳島県)に独自技術を採用した排水ポンプ「ポンプラス」を納入
- 炭化水素などを活用した二酸化炭素を排出しない水素製造技術開発に向け、物質・材料研究機構(NIMS)と共同研究を開始
- インターステラテクノロジズ株式会社と国立大学法人室蘭工業大学と共同研究・開発の超小型人工衛星打上げロケット「ZERO」のポンプ部分の性能検証の要素試験を実施

5月
MAY

- 国土交通省 九州地方整備局に災害復旧用排水ポンプ車を納入
- 女子バスケットボールチーム東京羽田ヴィッキーズとオフィシャルパートナーを継続契約
- インドのポンプメーカーにてFabless Localization(外注現地生産)ラインを開始(EBARA MACHINERY INDIA PRIVATE LIMITED)

6月
JUN

- 刈谷知立環境組合クリーンセンター(愛知県)第2期包括的運営管理業務委託を受注(株式会社荏原環境プラント) **C**
- 経済産業省・東京証券取引所・独立行政法人情報処理推進機構が選定する「DX注目企業2022」に初選定
- インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム2022に出展
- グローバル市場と持続可能な経済の発展を目指す国際組織の国際コーポレートガバナンス・ネットワーク(ICGN)に加盟
- 2022年度公益社団法人腐食防食学会の技術功労賞を受賞
- 水素を含む低炭素の天然ガス・パイプライン輸送ネットワーク用に設計したコンプレッサ「140TCH型パイプライン・コンプレッサ」を発表(エリオットグループ)



CMP装置の累計3000台出荷達成



マスプロダクツ型排水ポンプ設備



刈谷知立環境組合クリーンセンター

従業員の社会貢献活動
～社内募金活動～

当社社員食堂にて、従業員が気軽に参加できる社会貢献活動として、特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの募金活動に賛同しています。先進国での健康的な食生活を推奨しつつ、開発途上国の子どもたちに学校給食を届ける活動です。2015年より毎週月曜日に羽田、袖ヶ浦、富津、藤沢、熊本の5つの事業所で募金活動を実施しています。定食1食ごとに20円寄付する取り組みです。社員食堂に設置した寄付専用皿をトレーに載せて会計し、1枚につき個人が10円、会社が10円負担します。20円の寄付で開発途上国の子どもたちの給食1食分を提供することができます。

世界では10億人近くが飢餓で苦しむ一方で、10億人以上が肥満状態とされています。この問題について従

業員に考える機会を提供し、実際に活動に参加することで社会貢献に対する意識を向上させる目的で継続しています。



羽田の食堂に設置した寄付皿

神奈川県森林再生パートナー制度に参加

2007年6月より神奈川県の森林再生の取り組みに賛同し、「森林再生パートナー制度」に協力しています。今年で15年目を迎え、2022年6月にはさらに5年の契約を更新しました。

神奈川県藤沢市に事業所を持つ当社は、事業を通じたCO₂削減の推進だけでなく環境保全活動を行うことも重要であると認識しています。当社の社会貢献活動方針の重点テーマに沿って、事業活動地域の発展に寄与するため、森林再生パートナーとして神奈川県愛甲郡清川村に約15ヘクタールの「荏原製作所 水と空気と環境の森」を構え、このエリアを中心とした森林保護活動に貢献しています。私たちの豊かな生活を守るために森林は大切な働きをしており、次世代に引き継いでいく必要性があることを、この活動を通して従業員の理解に繋げています。

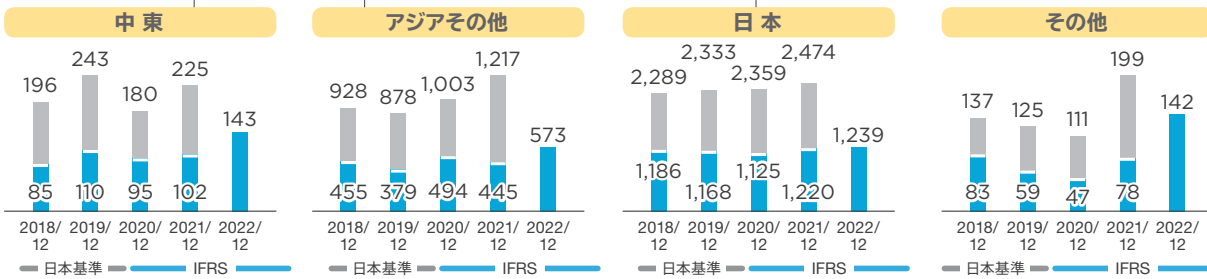
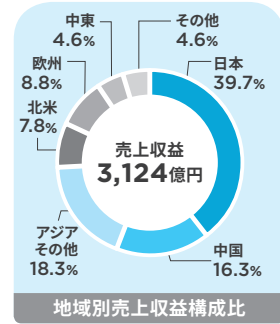


荏原のネーミングライツ森林前の看板



森林保護活動の様子(過去の取り組み)

地域別売上収益の推移(単位:億円) (売上先の所在地別に集計) ■ 第2四半期 ■ 通期

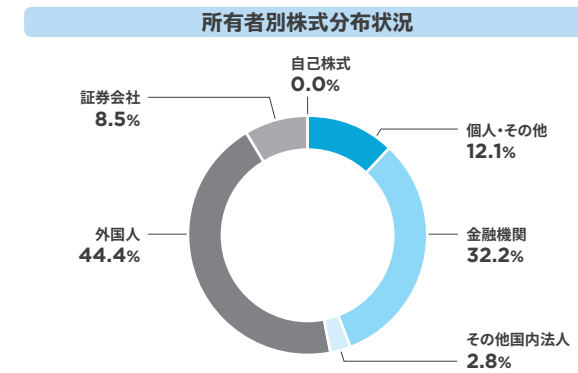


会社概要	
商号	株式会社住原製作所
本社所在地	〒144-8510 東京都大田区羽田旭町11番1号
電話	(03)3743-6111 (ダイヤルイン代表)
創業	1912年(大正元年)11月
資本金	797億円
従業員数	4,185名(連結18,788名)
関係会社	子会社104社 関連会社4社

株式の状況	
発行可能株式総数	普通株式 200,000,000 株
発行済株式の総数	普通株式 92,059,115 株
株主数	26,108 名

大株主(上位10名)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,341	18.8
いちごトラスト・ピーティイー・リミテッド	9,757	10.6
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,497	6.0
SMBC日興証券株式会社	2,679	2.9
BBH (LUX) FOR FIDELITY FUNDS - SUSTAINABLE WATER AND WASTE POOL	1,967	2.1
日本証券金融株式会社	1,691	1.8
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	1,323	1.4
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	1,260	1.4
ナテイクシス日本証券株式会社 BNYM	1,150	1.2
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,111	1.2

(注)持株比率は、自己株式(23,349株)を控除して計算しています。

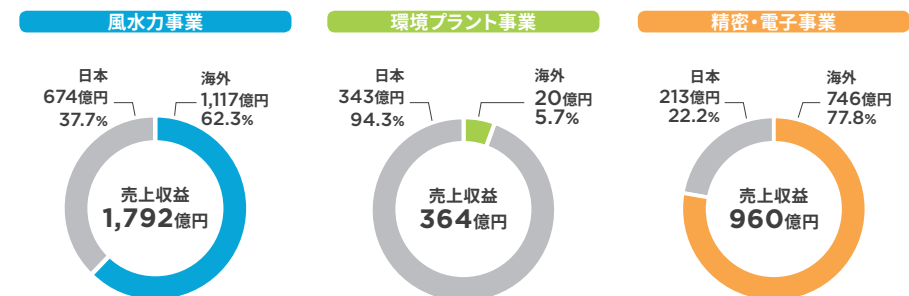


役員			
取締役			
取締役会長	前田 東一	社外取締役	西山 潤子
取締役	浅見 正男*	社外取締役	藤本 美枝
社外取締役	澤部 肇	社外取締役	北山 久恵
社外取締役	大枝 宏之	取締役	長峰 明彦
社外取締役	橋本 正博	社外取締役	島村 琢哉

執行役			
代表執行役社長	浅見 正男	執行役	南部 勇雄
執行役	永田 修	執行役	露木 聖一
執行役	沖山 喜明	執行役	細田 修吾
執行役	山田 秀喜	執行役	佐藤 誉司
執行役	太田 晃志	執行役	中山 亨
執行役	宮木 貴延	執行役	小和 瀬 浩之
執行役	大井 敦夫	執行役	曾布川 拓司
執行役	戸川 哲二		

株式事務	
事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月に開催
基準日	12月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金受領 株主確定日	12月31日 中間配当を実施するときの株主確定日は6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店でっております。
公告方法	電子公告 https://www.ebara.co.jp ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
証券コード	6361
単元株式数	普通株式 100株
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場

事業別海外売上収益比率(2022年12月期第2四半期(累計))



国内・海外の
関係会社数 108社

海外	
関係会社	66社
中国	13社
アジアその他	19社
北米	7社
欧州	9社
中東	7社
その他	11社
国内	
関係会社	42社

IRカレンダー





Twitter

https://twitter.com/EBARA_OFFICIAL



Facebook

<https://www.facebook.com/EBARACORPORATION1912/>



YouTube

The EBARA Channel

<https://www.youtube.com/channel/UC2khcpzNTcFQXUj3AiuffUQ>



LinkedIn

<https://www.linkedin.com/company/ebara-corporation/?viewAsMember=true>



統合報告書

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、当社グループが中長期にわたり企業価値を創造するプロセスなどを紹介しています。

<https://www.ebara.co.jp/ir/library/annual-report/index.html>



エバラ時報

当社の研究開発の成果や新製品・技術情報を発信する情報誌として、ステークホルダーの皆様へ、製品・技術・サービスを分かりやすく解説しています。

<https://www.ebara.co.jp/jihou/index.html?newsletterPage=1>



エバラ時報HTMLメール
配信登録アドレス

ebara-engreview@uh28.asp.cuenote.jp
登録をご希望の方は上記アドレスへ
空メールを送信してください。



株式会社 荏原製作所

発行：経営企画部 IR・広報課
〒144-8510 東京都大田区羽田旭町11番1号

当社のWEBサイトで、メディア掲載記事をご覧いただけます。社長の浅見やカンパニープレジデントらの取材記事を、ぜひご覧ください。

主な掲載記事

週刊日経ビジネス (2022年6月27日)

荏原製作所の「流体技術」で持続可能な社会へ
— 激甚化する災害を防ぐ一方、世界の人に
水を届け 水や食べ物に困らない世界を —

日経産業新聞 (2022年6月3日)

荏原、「ターコイス水素」研究
26年ごろの商用化めざす

化学工業日報 (2022年4月25日)

2022トップインタビュー
【展望】「電子・精密分野の研究強化」

日刊工業新聞 (2022年4月25日)

中期計画 前倒し達成

日経CNBC (2022年4月5日)

朝エクスプレス トップに聞く

THE WORLD FOLIO (2022年3月31日)

Technology. Passion. Support our Globe

日刊工業新聞 (2022年2月2日)

「ほしい人材×育てる人材」
— 自分で決める主体性重要 —

週刊東洋経済 (2022年1月24日)

技術で、熱く、世界を支える100年企業が
取り組む「ESG経営」の現在地

<https://www.ebara.co.jp/corporate/newsroom/media/index.html>



IRメール配信サービスのご案内

最新のIR情報を電子メールでお知らせするIRメール配信サービスを行っています。ぜひご登録ください。



https://www.ebara.co.jp/ir/support/information/ir_mail.html

